

『禅のこころ-曹洞宗-』

だるま
達磨さま

平成29年10月第1週放送

十月五日はだるま達磨さまのご命日とされ、法要が営まれます。私たちにとっては馴染みのあるだるま達磨さまですが、在世当時の様子を伝える資料が極めて少ないことから、歴史上謎の多い人物です。それによって、今に至るまでさまざまな伝説が生まれ、だるま達磨さまを慕う多くの人々の願いを受け止めているのです。

達磨さまの教えは、弟子の曇林によってまとめられた書物として、中国敦煌の莫高窟で二十世紀初頭に発見されました。それは、坐禅の行に基づいて、仏性を頂いている自己を確信し、怨みを捨て、感情に流されず、欲を捨て、惜しむ心なく人々を導くという、具体的な実践を尊ぶという教えです。

この坐禅に基づいた教えによって、禅宗の開祖として崇拝されているだけでなく、身心の鍛錬として始められたと伝えられている少林寺拳法の開祖としても祀られています。

更に私たちにとって親しい存在となっているのは、雪舟をはじめとした坐禅の姿のだるま達磨さまを描いた優れた絵画や、縁起物の達磨人形のおかげでしょう。時代が下るにつれ、赤い衣を身にまとい大きな目をしただるま達磨さまの姿を生み出していきました。

達磨さまの姿形には、縁起物ならではの願いが込められています。まず、倒れても起き上がるその形は不撓不屈の坐禅の姿を表しています。赤い衣と大きな目には、陰陽五行説という中国の世界観が反映されています。それによると、世界は植物の木に代表される要素、燃え上がる火の要素、大地の土の要素、金属の要素、流れる水の要素によって成り立っているとみます。だるま達磨市が開かれるお正月は、旧暦の春。春は植物の木の要素に相当します。この木の要素は、私たちの体に当てはめると目にあたります。お正月に目の大きいだるま達磨さまを新調することで、幸先の良い年のスタートをきる事が出来ます。

更に、金属の要素は、春を象徴する木の要素の働きを妨げると言われています。その金属の要素の働きを弱めるのが火の要素で、この火を色に当てはめると赤になります。だるま達磨さまの衣が赤いのはこのためです。それに片目を入れることで、縁起物の達磨人形はその力を発揮するといわれるのです。

『禅のこころ -曹洞宗-』

そんな達磨人形の前で、歌にもあるように「にらめっこ」をしてみてください。

自^{みずか}らカッと見開いた目は、新春を幸先の良いものにする木の要素を活性化させますし、自^{みずか}ら口元をしっかりと結ぶことで木の要素の働きを妨げる金属に属する声が発せられなくなります。つまり、口を結び黙って坐禅を組む達磨さまをまねた「にらめっこ」は、まさに幸運を呼び込む遊びなのです。

達磨さまのご命日である今月、たくさんの人のさまざまな願いを受け止めてきた達磨さまの姿に思いを馳^はせてみたいものです。

— 終 —